2023年1月号　　題字　一萬田 尚登 第5代日印協会会長

月刊インド

Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会（日印間の政治・経済・文化・人的交流に貢献して120年）

ジビ・ジョージ駐日大使による菅会長・齋木理事長への表敬訪問

目次

菅会長より年頭のご挨拶 …… P. 3
インドの魔法 …… P. 4
インドのきら星 …… P. 7
インドニュース(2022年11月-12月) …… P. 10
イベント紹介とお知らせ …… P. 14
新刊書紹介 …… P. 16
掲示板 …… P. 18

広告削除後、目次とページを合わせるために空白ページをいれております。

年頭のご挨拶

New Year's Greeting

みなさん、明けましておめでとうございます。

私はこのたび、故安倍晋三前会長の後任として、日印協会の第９代会長に就任しました。

今年は、日印協会が明治 36 年に創立されて以来 120 年の節目に当たります。日印協会は、先達が当時英国植民地であったインドと直接交流する目的で創設した伝統ある団体です。

この歴史ある協会の会長は大役であります。しかし、20 年以上会長を務められた森喜朗元総理と安倍晋三元総理の後任会長ということで、これはお受けしなければいけないと思いました。

私が総理大臣在任中にはインドに行く機会がありませんでしたが、安倍晋三総理のあとを引き継ぎ、モディ首相とは何度も会っております。昨年も５月と９月に会いましたが、その都度互いに胸襟を開き親交を深めながら、「自由で開かれたインド太平洋構想」のもと、「インド洋と太平洋の二つの海の交わり」で繋がった、自由と民主主義および法の支配、という共通の価値観を有する、世界でも稀な二国間関係を大切に思い発展させてきました。

森元総理が 2000 年に発足させた、「21 世紀における日印グローバルパートナーシップ」が、安倍元総理のときに、「特別 戦略的 グローバル パートナーシップ」に発展し、戦略的パートナーであるインドとの関係を、政治、安全保障、貿易、投資、人的交流などあらゆる分野で強化することに尽力しており、そこは今後も引続き進めていかなければなりません。

今年は、日本が G7 の議長国、またインドが G20 の議長国、共に手を携えて世界をリードし、この二国間の共存共栄が、ひいてはアジア太平洋地域全体の平和と繁栄のためになるべく、これからも益々協力し合わなくてはなりません。

世界が様々な危機に直面するこのタイミングで、日印両国の大きな架け橋の一つである日印協会の会長職をお引き受けしたことが、まさに天命であると安倍晋三前会長も仰っていましたが、そのご遺志を継いで私も全力を尽くしてまいりたいと考えています。どうか会員の皆様の御支援と御協力をお願いいたします。

令和５年１月
公益財団法人日印協会
会長　菅義偉

インドの魔法
Magic in India

公益財団法人日印協会理事
山田真美

あけましておめでとうございます。

「新年にふさわしい楽しい読み物を」とのリクエストをいただきましたので、しばし日常を離れ、インドに古くから伝わる「マンゴーの木」のマジックについてお話ししたいと思います。「なぜマジックの話？」と疑問に思われた方もいらっしゃるでしょうが、実は筆者がインド研究をはじめたとき、最初に選んだテーマが「マンゴーの木」の研究だったのです。1990 年のことでした。

「マンゴーの木」はストリートマジックの一種です。マジシャンは、まず土の上に深さ 10 センチほどの穴を掘り、マンゴーの種を植えます。その上に巨大な籠（かご）をかぶせ、さらに大きな布で覆い隠し、水をかけ、「アブラカダブラ…」と怪しげな呪文を唱えてから籠と布を取り除いてみれば、あら不思議。何もなかったはずの土の上にはマンゴーの木が生い茂り、枝にはマンゴーの実が生っているではありませんか。もぎ取って一口食べてみると、これが実に美味しい。

……とまあ、簡単に言ってしまえば、これが「マンゴーの木」の概要です。

この、インドの古いマジックを取材し、そこからインドの精神文化を探り、ひいては日本文化との比較考証を行ないたい。今にして思えば随分と壮大なテーマを打ち上げたものですが、そこはそれ、インドを知らない者の強みで、当時まだ二十代だった筆者はマジシャンを探して意気揚々とインドに飛び込んで行ったのでした。1990 年 1 月のことです。

このとき筆者をインドへ招待してくださったのはインド文化関係評議会（I.C.C.R.）。かつて作家の三島由紀夫氏や東大の中村元先生が渡印なさったときと同じ助成金だったようで、筆者も下へも置かぬおもてなしを受けました。「文化に対してこれだけ潤沢な予算を持ち、敬意を払ってくれるとは、なんと心の豊かな国だろう」と感動したことを覚えています。

ちなみに 1990 年といえば、奇しくもインドが経済自由化路線に舵を切る前年に当たります。インドをざっと一周してみて、物資が不足しているという印象を強く受けました。外国製品を見かけることは基本的に皆無で、たまに見かけるのはソ連製。品質は決してよろしくなく、ホテルの備品のテレビに「画面から火を噴く危険があるので正面ではなく斜め前から見ること」の注意書きが貼られていて驚愕したこともありました。

路傍のチャイワラからお茶を買う文化は今と変わりませんが、当時はプラスティック製ではなく素焼きのカップにチャイを入れてもらい、飲み終えるとその場で地面に叩きつけて割ってしまうのが流儀でした。初めて見たときは驚きましたが、こうすれば他人が使ったカップを再利用せずに済みますし、カップは自然に土に返るし、カップを作る職人は毎日新しい仕事をもらえます。今の SDGs を先取りしたやり方だったかも知れませんね。

今と一番違っていたのは、情報通信事情でしょう。携帯電話やインターネットが普及する前でしたから、何か知りたいことがあればいちいち現地に出向き、じかに確かめなくてはなりません。

しかもインドには「道を聞くときは 3 人以上に聞け」という諺があって、一人の意見を鵜呑みにしてはいけないのだそうです。知らなくても知っているふりをして道を教えてくれる親切（ありがた迷惑？）な人が多いので、質問があったら必ず 3 人以上に聞き、その中の多数意見を採択せよというわけです。仮に一人だけの意見を信じて騙された場合は、騙されたほうが悪いのです。

P.C.ソーカ（ジュニア）さんと筆者。
後方の肖像画は初代 P.C.ソーカ。
1990 年、カルカッタ（現コルカタ）のソーカ邸にて撮影。©Mami Yamada

もう一つ、インドの古いストリートマジックのいくつかが当時絶滅しかけていたという深刻な理由もあって、「マンゴーの木」のマジシャンを探すという、たったこれだけのミッションに、恐ろしく長い時間がかかってしまいました。

カルカッタ（現コルカタ）にたどり着いたとき、インドを

代表するマジシャンのP.C.ソーカ（ジュニア）さんと出会えたことは、この旅のハイライトだったと思います。お名前にジュニアと付いていることからお分かりのとおり、彼は二代目。亡き御尊父が初代P.C.ソーカさんで、この方こそは、インドマジックを世界に広めた立役者でした。ターバンをかぶり、インド情緒たっぷりの煌びやかな衣装に身に包んで演じた印洋折衷のイリュージョン（美女の胴体切りなど大規模なステージマジック）は、初代P.C.ソーカさんが確立したマジックのスタイルと言われます。

日本贔屓としても知られた彼は、何度も来日して各地でショーを開催なさいましたが、北海道で興行中の1971年、宿泊先の旅館で心臓発作のため急逝（享年57歳）。このときインドから急きょ駆けつけて代役を務めたのが次男（ジュニア）でした。

ジュニアも初代に負けないほどの日本贔屓で、これまでに何度も来日し、大規模なマジックショーを披露していらっしゃいます。心理学博士号を持つほどの知性派であり、ご本人はストリートマジックはなさいませんが、「マンゴーの木」に関する筆者の質問に対して理路整然と説明を加えてくださいました。インドにおけるサラブレッドなマジシャンという意味で、ジュニアの右に出る者はないでしょう。

こうしてP.C.ソーカ（ジュニア）さんをはじめとする多くの人々から御協力をいただいたにもかかわらず、1990年の第一回インド訪問で、筆者は「マンゴーの木」のマジシャンを見つけることがついにできませんでした。あとほんの少しで会えるというところまで近づいたのですが、目指すマジシャンは筆者がたどり着くわずか3日前に老衰で亡くなっていたのです。

初めての旅以来、すっかりインドの奥深さの虜になった筆者は、その後もI.C.C.R.やインド観光省などの招待を受けて、家族と共に何度もインドを再訪。次第に旅だけでは物足りなくなり、「インドで暮らしたい」という想いを断ちがたく、ついに1996年からは家族4人そろってニューデリーで暮らし始めました。

そんなある日、インド最南端のケララ州に「マジック・アカデミー」なる学校が開校したことを偶然に知りました。『ハリー・ポッター』に登場するような魔法学校を一瞬想像しましたが、そうではないようで、入学案内のパンフレットには「マジックの勉強をとおして、いかがわしい迷信を吹き飛ばし、ミステリーと呼ばれるものの正体を暴き、科学の灯を掲げましょう」と記されています。生徒は小学生から大学教授や銀行の支配人まで、あらゆる年齢層にわたり、マジックの勉強を通じて集中力と記憶力を高め、科学的な思考力・判断力、および自信を養うことが目的のようでした。

ゴーピナート・ムトゥカドさん（向かって右）
とサムスディーンさん。
1997年、ケララ州グルワユールにて撮影。
©Mami Yamada

同校を主宰するゴーピナート・ムトゥカドさんは、ケララ州では知らぬ者のない超有名マジシャンだと人づてに聞き、すぐに連絡したところ、たいへん親身になって筆者の相談に乗ってくださいました。ご自身はストリートマジシャンではないにもかかわらず、「マンゴーの木」のマジシャンを探し出し、筆者に引き合わせることを約束してくださいました。ムトゥカドさんは実に面倒見がよく、若いマジシャンの登竜門となる大規模なコンテストを主催したり、みずからが持つ技術を快く後進のマジシャンに教えるなど、人助けをすることが生き甲斐のようでした。

ムトゥカドさんのお力を借りて、筆者がついに「マンゴーの木」のマジックをこの目で見ることができたのは、1997年3月。初めてインドの大地を踏んだときから数えて7年後のことです。

ムトゥカドさんが探して来てくれた「マンゴーの木」のマジシャンは、サムスディーンさんという名のイスラム教徒の男性でした。御年42歳。小学校へも行ったことがなく、10歳のときには既にマジックで日銭を稼いでいたと言いますから、この時点で芸歴32年のベテランでした。

「親父も、爺さんも、ひい爺さんも、みんなストリートマジシャン。俺で5代目。あそこにいる息子が6代目を継ぐことになっています」。サムスディーンさんはそう言いながらアシスタントの少年を指さして見せました。

この日サムスディーンが見せてくれた一連のマジックは、次のような順番で行なわれました。

彼はまず、コブラとたくさんの蛇を使ってひとしきり観客を脅かしたあと、急転直下、メインイベントである「マンゴーの木」のマジックを演じました。それが終わると今度はいきなり顔を歪めて口からもうもうと白煙を

吐き出し、次に同じ口から 100 本近い釘をこれでもかと吐き、最後はアシスタントの少年の喉を短剣で一突き（もちろん実際には刺していませんが）、あたりを血の海にしてしまいました。

ダムルー（一種のでんでん太鼓）がハイピッチで間断なく鳴り響く中、観客は次第にマジシャンのペースに巻き込まれて、マジックの種や仕掛けについて考える余裕を失ってしまうのです。サムスディーンさんは、まさに手練れと呼ぶにふさわしい一流のストリートマジシャンでした。

サムスディーンさんの“相棒”であるコブラを持つ筆者。1997 年、ケララ州グルワユールにて撮影。©Mami Yamada

以上、駆け足になりましたが、1990 年から 1997 年にかけてのインドで筆者が探し求めた「マンゴーの木」のマジックについて、今回はさわりの部分だけお話しさせていただきました。

余談ながら、インドの言葉でマジックはインドラジャラ（またはインドラジャル）。語義的にはインドラ神（日本でいう帝釈天）の網を意味します。このことからもお分かりのように、インド神話とマジックは極めて深い関係を持ち、そのことがやがて筆者を神話研究へと駆り立ててゆくのですが……そのお話は、機会がありましたらいつかまた。今日のところは、インドマジックの世界に少しでも興味を持っていただけたなら望外の幸せです。

最後に、P.C.ソーカ（ジュニア）さん、ゴーピナート・ムトゥカドさん、サムスディーンさんのそれぞれの近況をひとこと付け加えて、本稿を終わらせていただきたいと思います。

P.C.ソーカ（ジュニア）さんは、今年で 77 歳。68 歳だった 2014 年、インド総選挙に BJP の候補として出馬なさり、マジックファンを驚かせました。結果は全インド草の根会議派選出の女性候補が勝利し、ジュニアは落選。ジュニアが政治を目指した理由は分かりませんが、インドには「元マジシャン」として知られるラジャスタン州のアショーク・ゲーロット州首相の例もあり、マジシャンが政治の世界に打って出ること自体は、今や珍しいことではありません。ナレンドラ・モディ首相に近いとされるジュニアの今後の動向を見守りたいと思います。

ゴーピナート・ムトゥカドさんは今年で 59 歳。これまでマジック・アカデミーを通じて多くの人々にマジックを教え、数多くのコンテストを開催してインドマジック界の発展に大きく貢献なさいましたが、2021 年 11 月をもってマジシャンを完全引退。残りの人生はすべて differently abled children（いわゆる障害児）の福祉のために捧げると宣言し、彼らを受け入れるためのセンターを創設して事務局長を務めておられます。最近は諸外国を視察し、障害のある子どもたちにどのような施設が提供されているかを勉強中で、去る 2022 年 12 月には数日間にわたって日本を訪問。筆者も久しぶりにお目にかかって忌憚のない意見を交わしました。今後はマジック以外の分野で親交を深めることができそうです。

間もなく 68 歳になるサムスディーンさんは、風の噂によれば、今も変わらずに「マンゴーの木」を演じつづけていらっしゃるそうです。息子さんもマジシャンとして円熟期を迎えた頃でしょうか。ただ、コブラ等の蛇類は、かつてはストリートマジシャンになくてはならない相棒的な存在でしたが、現在は野生生物保護法等により、使用はもちろん、所有すること自体が厳しく禁じられてしまいました。インドの隅々にまで押し寄せる近代化の波の中で、伝統文化はどう変化してゆくのか。この次にケララ州を訪ねるときは真っ先に彼らの元を訪れ、そうした現状について聞き取り調査をしてみたいと思います。

なお、「マンゴーの木」をめぐる筆者の旅の全貌をお知りになりたい方は、拙著『インド大魔法団』（清流出版, 1997, 物語の前編に相当）と『マンゴーの木』（幻冬舎, 1998, 後編に相当）をご高覧ください。古い本で、どちらも絶版ですが、主要な図書館には置いてあると思います。

2023 年が皆さまにとって健やかでマジカルな年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

※（日印協会より）『マンゴーの木』は日印協会の事務所にございます。会員にお貸しすることが可能です。

山田真美（やまだ・まみ）：

作家で博士（人文科学）。2001 年から日印芸術研究所（インド政府認可法人）言語センター長、2010 年から日印協会理事、2015 年からはインド工科大学ハイデラバード校教養学部客員准教授を務めている。

公式ウェブサイト www.yamadamami.com

インドのきら星
A Shining Star of India

公益財団法人日印協会監事
江田　仁

インドのゴミ問題に取り組むインドの若き経営者の活躍を紹介したいと思います。

現在 30 歳のプネ生まれの Mr. Abhishek Shelar は、24 歳の時にゴミを吸引回収する機械の製造販売する会社 Spruce Up Industries Private Ltd. (SUI)を創設し、今日までに合計 150 台の製品をインド各地に納入しています。（SUI の URL ; https://spruceup.in）

製品（移動中）

Mr. Abhishek Shelar, CEO

チェンナイ市納入

ゴミ問題に苦闘するインド中央政府は、SUI の製品を、これぞインドが長く待ち望んでいたものであると絶賛しています。既にチェンナイ他の大都市が SUI の製品を活用しています。

Forbes Asia（産業、製造業及びエネルギー部門） 30 歳以下のベスト 30 人に選出されたこともある SUI の若き社長は、インドと世界に高品質、経済的、コンパクト、そして強力なパワーを発揮する頑丈なゴミ吸引回収機を提供することを目指して世界でトップクラスの機械を開発してきました。

ゴミの吸引回収作業

ゴミは、害虫、害鳥、害獣を繁殖させるのみならず、地下水を汚染し、周辺住民の健康を害すると同時にゴミ処理に携わる人々の健康を害するので何とかしたいとの強い思いからの開発です。

SUI の製品は Jatayu の名を冠しています。Jatayu（ジャターユ）は古代インドの長編叙事詩ラーマーヤナの中に登場するハゲワシです。悪魔にさらわれそうになったラーマ神の妻シータを助けるために犠牲となった神話上のハゲワシです。　(https://ja.wikipedia.org/wiki/ジャターユ)

SUI は、人間の間違った行為によって汚された母なる地球を綺麗にして守ることに貢献したいと言う思いから自己犠牲の精神の象徴である Jatayu を製品名としていますが、ハゲワシは、動物世界でユニークな存在で、全ての死骸を食べて処理してくれます。ハゲワシは上空から死骸を見つけては処理してくれます。同様に SUI の Jatayu はゴミを見つけては吸引回収します。ハゲワシは長い首を持っているので、死骸の内部まで綺麗に処理してくれます。それでもハゲワシは清潔さを保ちます。SUI の Jatayu も長い首（ホース）を有しているので、ゴミを隅々から回収してくれます。それでいて機械はクリーンな状態を保ちます。

ジャターユ　（出典：Wikipedia）

日印国交樹立 70 周年の記念すべき年の年末に Jatayu が沖縄の地に降り立ちました。

東京に本社のある会社が、沖縄の海岸を清掃する事業の一助として日本に於ける Jatayu 初号機を購入されました。今後 SUI は、その優れた製品を日本を含む世界中に拡販したいと思っています。

Mr. Abhishek Shelar は、今後も SUI の CEO を続けますが、更なる技術開発と事業のグローバル化のために生活の拠点を米国に移します。IIT ムンバイを卒業後米国ハーバード大学（修士）に学んだ経験から米国のビジネス環境の良さを知っての決断と思われます。

英国植民地時代インド人は理系の勉強が許されていませんでした。産業革命で先んじた英国はインドをその製品の消費地として止め置くためにインドでの機械製造が出来ないよう理系の学修を許さなかったのです。今はそうした制約から開放されて 75 年が経ちます。

優秀な人材を有するインドでは、今後 Mr. Abhishek Shelar のような高い理想と理念を持った若者がどんどん排出されるものと思います。その中には同氏のように自身の利益よりも社会貢献を優先する若者が多く出て来るものと思います。インドの今後が楽しみです。

江田　仁（えだ・じん）：

日印協会監事。三菱重工ニューデリー事務所の初代代表として 1994 年から 1999 年まで駐在。三菱重工を定年退職後都内の私立大学に 6 年間勤務

インドニュース(2022 年 11 月-12 月)
News from India

1　内政

（最高裁）

●11 月 7 日、インド最高裁は、これまで留保制度の対象外であった上位カースト内の経済的弱者に対する、教育機関及び政府職における 10%の留保枠の確保に関し、3 対 2 の賛成多数でその有効性を支持した。

（中央政府）

●12 月 2 日、現地メディアは、7 日から開始される冬期国会向け、中央政府は、16 法案を提出予定である旨報じた。

●12 月 24 日、冬期国会が閉会した。

（コングレス）

●12 月 3 日夜、全国行脚キャンペーン中のラーフル・ガンディ元コングレス総裁が、ラジャスタン州入りした。州内では行脚ルートに沿って、ポスター設置などの準備が進められているが、ゲーロット RJ 州首相とパイロット州議会議員との内紛が報じられている中パイロット支持者が設置した掲示板を県行政が撤去するなど、コングレスの内紛が継続している。

●12 月 24 日、ラーフル元コングレス総裁主導による全国行脚キャンペーン（Bharat Jodo Yatra）一行がデリー入りした。

（ＲＳＳ）

●11 月 16 日、モーハン・バグワットＲＳＳ総裁は、（ムスリムやキリスト教徒含め）インドに暮らす全ての人は「ヒンドゥー」であり、全てのインド人のＤＮＡは同じであると述べ、誰も信仰の形を変更する必要は無いと主張。同総裁は、ヒンドゥーの定義について、インドを「母なる大地」と考え、宗教、文化、言語、食習慣、イデオロギーに関係なく、多様性の中の統一を望み、それに向け努力する全ての人々であると述べた。

●11 月 28 日、ビハール州を訪問中のバグワットＲＳＳ総裁が、ＲＳＳメンバーを対象とした会合において講演し、インドに住んでいる人々は皆ヒンドゥー教徒（Hindus）であることを理解するべきであり、ヒンドゥトゥワは、何世紀にも渡り受け継がれてきた文化を称するものであると述べた。

（グジャラート（ＧＪ）州）

●12 月 8 日、インド選挙管理委員会は GJ 州議会選挙結果を発表した。全 182 議席中 156 議席をＢＪＰが獲得した。

●12 月 12 日、現地メディアは、ブペンドラ・パテルＧＪ州首相が、州首相に再任され宣誓式が行われた旨報じた。

●12 月 14 日に行われたＢＪＰ党員の会合において、モディ首相は、グジャラート州ＢＪＰ代表のＣＲパテル下院議員の手腕を評価し、今後選挙が行われる他州においてもＧＪ州の選挙モデルにならい州議会選挙に向けて対策を行うよう呼びかけた。

（ヒマーチャル・プラデシュ（ＨＰ）州）

●12 月 8 日、インド選挙管理委員会は、ＨＰ州議会選挙結果を発表した。全 68 議席中コングレスが 40 議席、ＢＪＰが 25 議席獲得した。

●12 月 10 日、現地メディアは、スクビンダル・シン・スクーＨＰ州コングレス選挙対策委員長が、ＨＰ州首相に就任し宣誓式が行われた旨報じた。

（ジャンム・カシミール（JK）準州）
●11 月 26 日、ジャンム・カシミール（JK）準州選挙管理委員長が新たに登録された最終選挙人名簿総数を発表、有権者総数として 7 万 7,200 人増となる 835 万 9,771 人が登録された。
●12 月 12 日、ジャンム・カシミール（ＪＫ）準州北カシミールで地区開発評議会（District Development Council）の補欠選挙結果が発表された。以前は武装勢力の活動が相当数発生していた地域において、国民会議（ＮＣ）候補が 3259 票を獲得し勝利したもののＢＪＰ候補者が 4 位につけ、コングレス候補者の 746 票やＰＤＰの 612 票よりも多い 887 票を獲得し、次期準州議会選挙の準備が進められているＪＫ準州においてＢＪＰが一定の支持を得てこれまでとは異なる政治動向が見られた。
●ＢＪＰ主要幹部が、2023 年 5 月頃にジャンム・カシミール準州議会選挙が実施される可能性を示唆した。

（ラジャスタン（RJ）州）
●11 月 24 日、ゲーロット RJ 州首相（コングレス）が、NDTV のインタビューに応じ、「サチン・パイロット州議会議員（コングレス）は裏切り者であり、次期州首相候補にはなり得ない。BJP 側から 1 億ルピーの見返りを受けている」と非難した。パイロット側は「根拠が無く全くの誤りである」と述べており、来年州議会選を迎える RJ 州内コングレス内における内紛が報じられている。
●12 月 1 日、現地メディアは、ナッダ BJP 総裁が、ラジャスタン州ジャイプールで行われた BJP 関係者の会合において、RJ 州の開発に遅れているのは「州政権がダブル・エンジン（中央と州が同じ政党で運営）」ではないことが原因であると述べ、次期州議会選挙では BJP に投票するよう呼びかけた。

（グジャラート（GJ）州）
●11 月 26 日、ナッダ BJP 総裁は、BJP の GJ 州選挙マニフェストを発表した。マニフェストでは、2036 年インド・オリンピック招致に向けた「GJ 州オリンピック・ミッション」の設置、テロ対策部門の設置、統一民法（Uniform Civil Code）の導入、1 兆ルピー州経済の実現、200 万人の新規雇用の実現、女子児童への無償教育の実現等が挙げられた。

（ビハール（BR）州）
●12 月 16 日、ニティシュ・クマールビハール州首相（自民党統一派、ＪＤＵ党首）が、テジャスリ・ヤーダブＢＲ州副州首相（国民主義人民党、ＲＪＤ）を 2025 年の州議会選挙に向けた政党連合（ＭＧＢ）の代表に据える意向と述べた。

（トリプラ（TR）州）
●12 月 18 日、モディ首相がトリプラ州アガルタラにおいて合計 1000 億ルピーの道路連結性開発パッケージなどの開発プロジェクトの開始を発表した。

（メガラヤ（ML）州）
●12 月 18 日、現地メディアは、モディ首相が、ＭＬ州シロンで開催された北東協議会（ＮＥＣ）の 50 周年を記念式典に参加し、メガラヤ州・マニプール州、アルナチャル・プラデシュ州における合計 245 億ルピーの道路事業等のプロジェクトの発足を発表した。

2　経済

●12 月 7 日、インド準備銀行（RBI）は 12 月 5 日～7 日に開催した金融政策決定会合（MPC）の結果を公表した。・政策金利であるレポレートは、35bps 利上げし、6.25%となった。利上げは 5 会合連続（5 月の臨時会合含む）。利上げ及び利上げ幅はおおむね市場予想どおり。政策スタンスについて、引き続き「緩和的」を維持。おおむね市場予想どおり。国内経済の今後の見通しについて、インフレ率は 2023 年第 1 四半期まで、6%近くまたはそれを超えて推移、2023 年 9 月にインフレ圧力は緩和すると考えられるが、政策目標（4%）を大きく超える水準に留まるとした。成長率見通しは、消費面、生産面は力強いとしつつも、地政学的緊張等が見通しに大きな影響を与えていると指摘し、2023 年 10―12 月期以降について総じて引き下げた。

3　外交

（印露関係）

11 月 8 日

●ジャイシャンカル外相がロシアを訪問し、ラブロフ露外相及びマントゥロフ副首相兼露産業商務大臣と会談。

12 月 16 日

●モディ首相が、プーチン大統領と電話会談。

（印ベラルーシ関係）

11 月 9 日

●ジャイシャンカル外相が、マケイ・ベラルーシ外相と会談。

（印 ASEAN 関係等）

11 月 11 日

●ダンカル副大統領がカンボジアを訪問し、ASEAN・印記念サミットと第 17 回東アジア首脳会議に出席。また、シハモニ・カンボジア国王、フン・セン・カンボジア首相、チュム・カンボジア上院議長とも会談。

（米印関係）

11 月 13 日

●ジャイシャンカル外相が、ASEAN 印首脳会談のサイドラインでブリンケン国務長官と会談。

（国連）

12 月 14 日

●ジャイシャンカル外相がニューヨークで、クールシ国連総会議長、山田外務副大臣と会談。

●ジャイシャンカル外相が国連安保理で、「マルチラテラリズム改革の新たな方向性(New Orientation for Reformed Multilateralism ）」のテーマのもと大臣級会合の議長を務めた。

12 月 15 日

●ジャイシャンカル外相が国連安保理で、「テロ対策に向けたグローバル・アプローチ（Global Approach to Counter Terrorism）」のテーマのもと大臣級会合の議長を務めた。

（G20）

11 月 14 日

●モディ首相が、14 日から 16 日までインドネシア・バリを訪問し、第 17 回 G20 首脳会談に出席。15 日、サイドラインでバイデン米大統領、ウィドド尼大統領と会談。ウィドド大統領主催夕食会で習国家主席と面会。16 日、リー星首相、マクロン仏大統領、ショルツ・独首相、メローニ伊首相、アルバニージー豪首相、スナク英首相と会談。

12 月 1 日

●インドが、正式に G20 議長国に就任。

（印シリア関係）

11 月 18 日

●ミクダード・シリア外相が訪印し、ダンカル副大臣及びジャイシャンカル外相と会談。

（印 UAE 関係）

11 月 21 日

●アブダッラーUAE 外務・国際協力相が訪印し、ジャイシャンカル外相と会談。

●ジャイシャンカル外相が UAE を訪問し、インド・グローバル・フォーラムに出席。

●ジャイシャンカル外相が、アブダッラーUAE 外相と会談。

（印エジプト関係）
11 月 27 日
●エルシーシ・エジプト大統領が来年の印共和国記念日に主賓として招待される旨発表。

（印仏関係）
11 月 28 日
●ルコルニュ仏国防大臣が訪印し、ジャイシャンカル外相と会談。

（印尼関係）
11 月 29 日
●ドバル国家安全保障補佐官の招待で、マフッド・インドネシア政治・法務・治安担当調整大臣が訪印し、異教徒間の文化的平和、社会的調和におけるウラマーの役割についてのセミナーに出席。ジャイシャンカル外相と会談。

（印独関係）
12 月 5 日
●ベアボック独外相が訪印し、ジャイシャンカル外相と会談。

（印カナダ関係）
●ジャイシャンカル外相が、ジョリー・カナダ外相と電話会談。

（印ウクライナ関係）
12 月 26 日
●モディ首相が、ゼレンスキー・ウクライナ大統領と電話会談を実施。

（印キプロス関係）
12 月 29 日
●12 月 29 日から 31 日にかけて、ジャイシャンカル外相が、キプロスを訪問。2022 年は印・キプロス国交樹立 60 周年。

4　日印関係

11 月 18 日
●武井俊輔外務副大臣は、日印戦略対話（トラック 2）出席のため訪日中のインド人有識者（タルン・ダース氏ほか）による表敬を受けた。

11 月 23 日
●デリーにおいて、日印トラック 1.5 対話「第 5 回日印インド太平洋フォーラム」がハイブリッド形式で開催された。今回のフォーラムでは、「日本とインド：世界秩序に対する挑戦への対応とインド太平洋の安定の支え」のテーマのもと、日印両国の政府関係者及び有識者により活発な議論が行われた。公開セッションとなった「インド太平洋秩序の形成における日印の力とポテンシャル」のセッションでは、林芳正外務大臣及びスブラマニヤム・ジャイシャンカル・インド外務大臣がビデオ・メッセージを発出した。林大臣は、メッセージの中で、国際秩序が多くの挑戦に直面している中、基本的価値と戦略的利益を共有する日印の協力、連携が益々重要になっている旨述べた。また、本年が日印外交関係樹立 70 周年であることや、本年 3 月の岸田文雄内閣総理大臣インド訪問時に両首脳間で一致した、今後 5 年間における 5 兆円の官民投融資の目標に触れつつ、日印間の経済関係や人的交流の進展への期待を表明した。さらに、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の実現に向けて、日印の二国間協力や、日米豪印での協力を推進したい旨述べ、2023 年は、インドが日米豪印外相会合をホストし、G20

議長国を務め、日本がG7議長国を務め、国連安保理にも加わるという重要な一年であり、ジャイシャンカル外相と協力していきたい旨述べた。

12月5日
●武井俊輔外務副大臣は、経団連との協議のため訪日中のインド工業連盟代表団（サチット・ジェイン氏ほか）による表敬を受けた。

12月6日
●武井外務副大臣は、ジョージ駐日インド大使による着任表敬を受けた。

12月15日
●インド・デリーにおいて、山田重夫外務審議官とヴィナイ・モハン・クワトラ・インド外務次官の間で日・インド外務次官級政務協議が開催された。

イベント紹介とお知らせ
Japan-India Events ＆ Information

◇　最近のイベント　◇

◆　2022 年 12 月 2 日　「シビ・ジョージ駐日インド大使歓迎レセプション」

日印協会は在日インド商工協会、日印経済委員会と共催で、東京プリンスホテルに於いてシビ・ジョージ駐日インド大使歓迎会を開催しました。多くの日友好議連の先生方、会員皆様が集まり、身近に新大使と触れ合う機会となりました。

平林日印協会副会長、日印友好議連 細田博之会長が挨拶しました。ジョージ大使はインドと日本の繋がりの重要性を話されました。比良竜虎日印協会理事、及び在日インド商工協会 会長の乾杯挨拶での中で「日本各地に温泉に行ってほしい」、笑顔が素敵な大使を「ニコニコ大使」とお呼びしたのが印象深かったです。

（写真提供：インド大使館、在日インド商工協会）

◆　岩立フォークテキスタイルミュージアム　出版記念展「対話する布」へ行ってきました！

コロナの影響で一時期活動を停止していた岩立フォークテキスタイルミュージアム（自由が丘）。現在金曜日のみ開館、午前 10：00～12：00 と午後 1：00～3：00、各回 10 名の完全予約制です。やっと予約が取れた 1 月 13 日に行ってきました。展示はベンガルの祝い用布（カンタ）やパンジャーブの被衣（フルカリ）、アンデス　ナスカ期の手描染布など。

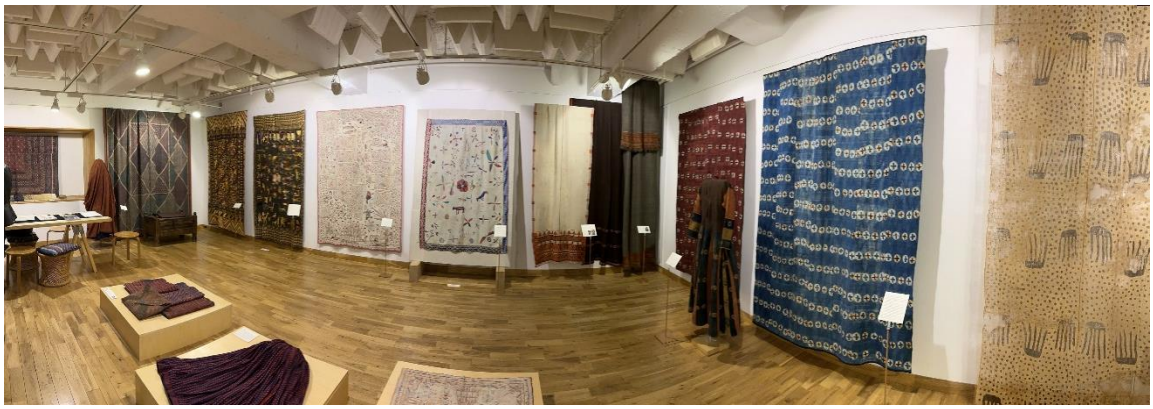
スタッフの方に展示の関しての詳しい解説や岩立広子氏の収集した際の現地のお話などを聞くことができ、勉強会、講演会のようでした。理解が深まると共に手仕事で作成した布への興味が広がりました。

今回の展示は 1 月 27 日までですが、次回は 3 月に新しい企画を用意する予定と伺いました。

新企画は「岩立フォークテキスタイルミュージアム」ホームページに掲載されるそうです。

また、予約を取ってぜひ伺いたいです。

https://iwatate-hiroko.com/current_exhibition/current_exhibition.html



日印協会事務所移転のお知らせ
Notice of Office Moving

このたび、千代田区麹町に移転させて頂く事になりました。
これを機に協会職員一同、気持ちを新たに、より一層日印友好促進のために　　専心する所存でございます。
今後ともお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

また、引っ越し前後は落ち着かず、会員様にもご迷惑おかけすることもございます。
よろしくお願い申し上げます。

【移転先住所】

〒102-0083
東京都千代田区麹町１丁目６番地　　麹町保坂ビル６階
東京メトロ半蔵門線 半蔵門駅 ３分　（出口 3a）
東京メトロ有楽町線 麹町駅 ７分 （出口 3）

電話番号：03-6272-4408　FAX 番号：03-6272-4135

【業務開始日】

2023 年２月６日（月）

新刊書紹介
Books Review

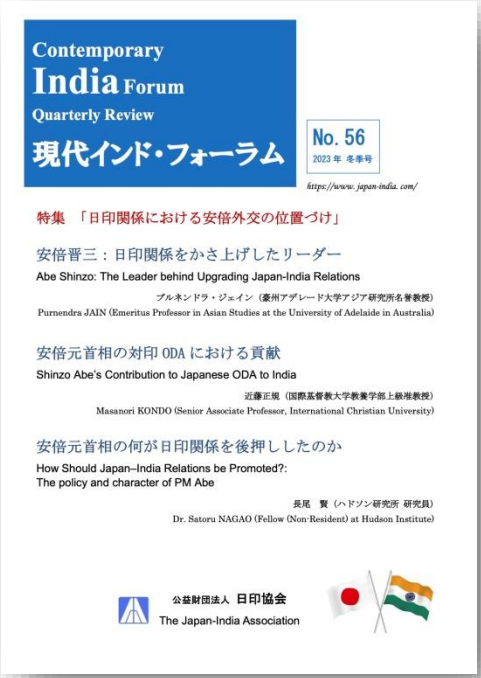
§日印協会発行『現代インド・フォーラム』2023年冬季号　No.56

「現代インド・フォーラム 2023年冬季号 No.56」は、下記日印協会ホームページにて一般公開しております。

ぜひご覧ください。

https://www.japan-india.com/forum/934038fb1fbb4e19c4c087614a93706029a49bf2

今号では、「日印関係における安倍外交の位置づけ」を特集し、下記3論文を掲載しております。



1. 安倍晋三：日印関係をかさ上げしたリーダー
   プルネンドラ・ジェイン（豪州アデレード大学アジア研究所名誉教授）

2. 安倍元首相の対印ODAにおける貢献
   近藤正規（国際基督教大学教養学部上級准教授）

3. 安倍元首相の何が日印関係を後押ししたのか
   長尾　賢（ハドソン研究所研究員）

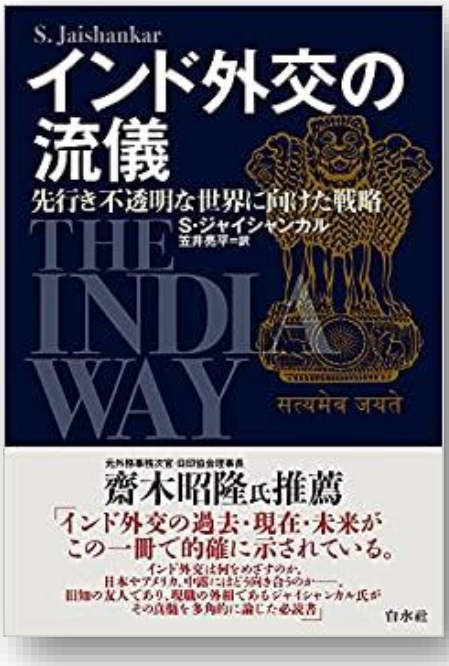
本誌に関してご意見・ご感想等ございましたら、日印協会までご連絡ください。

§『インド外交の流儀』

著者：S・ジャイシャンカル　　訳者：笠井亮平　　出版社：白水社

価格：3,300円(+税)　　ISBN：978-4-560-09470-9

原書は、『The India Way』の題でインドで発刊されたもので、著者が外務次官を退官後、シンクタンクで語った内容がベースとなっている。訳本は先月上梓されたばかりで、訳者は、岐阜女子大学南アジア研究センター客員准教授で日印協会の笠井亮平理事、また装丁をみると、帯には著者のジャイシャンカル氏とともに同じ時期に外務次官であったのみならず旧知の仲でもある、齋木昭隆日印協会理事長の名で推薦文が大きく印刷（あたかも著者と見紛う）されており、日印協会と縁深い。



この一年、ロシアのウクライナ侵略に対し、インドが必ずしも世界と同調しない独自路線を通し、むしろロシアを擁護しているかの印象を受ける方も多かったのではないか。このタイミングで、インド外交官として主流を歩み、モディ首相に請われ外務大臣の職にある、今のインド外交を象徴するジャイシャンカル氏の、インド外交の流儀が垣間見えるものといえる。

ロシアとの密接な外交姿勢が、はたして「日米豪との『クァッド』と両立するのか」の問いに対し、インドの答えは「イエス」で、我々二国間同盟を重んじる考えからすると、コウモリのように極めて異色に映るが、インドなりの理由が存在した。それは、

世界を「多極なもの」としてとらえ、相手を完全な友好国でも完全な敵国でもない「フレネミー（フレンドとエネミーからの造語）」として対処すべきとしている。今どきの外交は、「差しの勝負ではない」とのメッセージも垣間見えてくる。つまり、全ての利益が一致する国同士の関係はあり得ないと説いている。従って「クァッド」にも積極的に取り組みつつ、ロシアとの長年に亘る関係もアリ、なのである。

日印関係にも一章を割いて考察があり、「遅れてやってきた運命」として、両国が協力して二国間ではとどまらない、相見互いアジア大陸の未来の形成に欠かせない存在であることに言及している。インド独立の志士として日本軍と共に戦ったチャンドラ・ボースや、戦後の極東裁判で日本の無罪を主張したラダビノッド・パール判事にも触れ、戦後の占領軍としてインド軍が中国・四国地方に駐留したことなど、近現代の両国関係もカバーしているのは興味深い。

これらの大局観からは、将来インド流外交が、世界の重大課題の帰趨を握るようになることを予測させる。インド外交の手段を理解するうえで大変意義深く、是非とも興味のある方にはお奨めしたい書である。

最後に、翻訳をされた笠井亮平日印協会理事には、第１章から第８章までにわたり、そのサブタイトルの和訳の的確さにも感心している。

（日印協会常務理事 西本達生）

掲示板
Notice

＜ 次回の『月刊インド』の発送日 ＞

次回２月-3 月合併号の発送は、事務所引っ越しのため３月上旬を予定しております。

チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。また、インド関連イベントの後援も行っております。申請方法などお気軽にご連絡ください。

＜ 編集後記 ＞

日印協会は今年１月 25 日、芝公園内の東京プリンスホテルにて創立 120 周年を記念すると共に、今年１月１日付けで新会長に就任された菅義偉会長ご披露のレセプションを約250名の参加者を得て盛大に開催致しました。

レセプションには、岸田首相を始め、森元日印協会会長、細田日印議連会長、西村経産大臣等が参加され、財界からは鈴木修スズキ相談役、大橋コマツ会長、中村住友商事会長等多数の方々が参加されました。インド側からはジョージ駐日大使がご出席され、ジャイシャンカル・インド外務大臣のお祝いのビデオメッセージが披露されました。また、会場では余興として会員企業から提供された景品が当たる抽選会（ラッキードロー）なども行われて盛り上がり見せていました（次号で写真と共に詳しくお伝えします）。

依然として続くコロナ禍、ウクライナ戦争そして米中の対立激化等で世界が混迷する中、今年、日本は５月に G7（主要国首脳会議）を広島で開催予定であり、インドは９月に G20 （金融・世界経済に関する首脳会合）の議長国として会議を主導します。日印共に世界の対策をリードする重要な役割が期待されています。

（日印協会事務局長　石井 茂）

本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解･ご意見であり、当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。

入会随時受付中

日印協会は、1903 年、長岡護美、大隈重信、澁澤榮一の３名が中心となって創設されました。以来、日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。

現在の協会の活動は、当協会の活動に賛同下さる会員の皆様からの会費によって支えられております。今後もより良い活動を続けるために、当協会の活動にご賛同いただける法人･個人のご入会を歓迎致します。

インドに関心をお持ちのお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員･個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費:	個人	１口(8,000 円)から	☆入会金	個人 2,000 円
	学生	１口(4,000 円)から		学生 1,000 円
	一般法人会員	１口(100,000 円)から		法人 5,000 円
	特別法人会員	１口(150,000 円)から		(一般法人、特別法人会員共に)

月刊インド 2023年1月号（2023年1月27日発行）　発行人 齋木昭隆　編集人 石井 茂
発行所　公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604　Fax: 03-5640-1576　E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: https://www.japan-india.com/